

# まび野

(公財)岡山県郷土文化財団  
2026. 初春 第173号



国吉康雄 『ロバのいる風景』 昭和三年（一九二八）

油彩・カンヴァス 七五・五×一〇五・六cm（岡山県立美術館蔵）

国吉康雄（一八八九～一九五三）は、現在の岡山市北区出石町に生まれ、一九〇六（明治三十九）年に移民として渡米した。その後画家を志し、西海岸からニューヨークへと移り、一九二〇年代（大正後期）より個展を開催する。一九三一～三二（昭和六～七）年に、一度帰国するが、太平洋戦争期を含めて米国で活動した画家である。

国吉は、一九二五～二六（大正十四～十五）年と二八～二九（昭和三～四）年に、二回渡欧している。おもな滞在先のパリでは言葉が通じず、冬の寒さが厳しく、同地での滞在期間は短かった。しかし友人の画家ジュール・パスキン（一八八五～一九三〇）から、制作の助言を得る。モデルを雇って女性像を制作するなど、従来行わなかった方法を制作に取り入れ

た。そして国吉の作風は、次第により写実的になった。

この作品は、『夢』（石橋財団アーティゾン美術館、一九二二）など、渡欧前の風景画と比べて遠近感がある。土の小丘。木々と数件の家。中央の木は左斜めに傾き、折れそうである。茶と緑の色彩は、画業初期から一九四〇年代まで、多くの作品で使われた。空を覆う雲は黒くて、嵐が起こりそうである。不穏な風景であるが、なぜか一頭のロバがたたずむ。孤独感が漂う作品である。影のある風景と寂寥感は、翌年の『秋のたそがれ』（東京国立近代美術館、一九二九）や、後年の代表作である『祭りは終わった』（岡山県立美術館、一九四七）などへと引き継がれた。

（岡山県立美術館主任学芸員 廣瀬就久）

目次

表紙説明	1
年頭にあって	2
随想	3
新しい場所で	〈山口雄治〉
岡山の人	4
三浦貞広	〈森 俊弘〉
岡山の自然	5
夫婦岩	〈川上真奈〉
岡山の文化財	6
真鍋島の走り神輿	〈安東康宏〉
わが町・わが村の自慢	7
勝央ふるさとミュージアム	〔勝央町勝間田〕
ふるさとの思い出	8
時實黙水さんと寒風古窯跡群	〔瀬戸内市〕
文化財団ニュース	9
催しのご案内	11
会員だより	13
ご案内	14

題字……岡山県郷土文化財団  
元理事長 長野 士郎

ご案内

### 第十八回

## 岡山県「内田百閒文学賞」 作品募集

岡山にゆかりのある文学作品を募集しています。募集作品のジャンルは、随筆及び短編小説（評伝・紀行文・戯曲を含む）です。皆様のご応募お待ちしております。詳細は文化財団事務局までお問い合わせください。

・テーマ  
岡山が舞台となるものや、岡山県出身の人物・自然・文化・風土・物産などを題材とした作品

・賞  
最優秀賞（一編）

賞金百万円

優秀賞（二編）

賞金二十万円

・最終審査員

小川 洋子  
平松 洋子  
松家 仁之

### 「郷土文化講座」開催

岡山の自然・歴史・文化等をテーマに岡山県立図書館で講座を開催します。多数のご参加をお待ちしています。

#### ①二月十三日（金）

「瀬戸内市の自然と文化  
ー個性ゆたかな牛窓・邑久・長船の歴史ー」  
公益財団法人  
瀬戸内市歴史まちづくり財団 専務理事  
村上 岳

#### ②三月三日（火）

「二色が岡景観復元整備事業」概要説明  
岡山県都市計画課  
課長 逸見 浩二  
「岡山後楽園」二色が岡「その魅力」  
公益財団法人  
岡山県郷土文化財団  
主任研究員 万城 あき

#### ③三月七日（土）

「現代語訳 美作太平記」を読み解くー書籍の監修作業を通じてー  
岡山地方史研究会  
森 俊弘

### 「会員作品展」作品募集

二〇二六年度の会員作品展を開催します。皆様のご出品お待ちしております。詳細は文化財団事務局までお問い合わせください。

#### ○会期

令和八年五月二十六日（火）～五月三十一日（日）

#### ○会場

岡山県天神山文化プラザ  
第二展示室

#### ○募集作品

絵画・写真・書・その他

#### お問い合わせ先

岡山県郷土文化財団  
電話

〇八六一二三三―二五〇五

### 文化財団広報（第一七三号）

発行 行（公財）岡山県郷土文化財団

岡山市北区表町一―七―十五

☎（〇八六）二三三―二五〇五

発行日 令和八年一月一日